

“津久井観音霊場巡り” その5

5日目 (H19, 2007/06/26 火) 車&歩き

車にて出発 (am10:15 出発) →沼本ダム立ち寄り→相模ダム駐車場→相模湖駅→藤野駅 (12:04 着 4.45k)
—1.55km—第 22 番; 藤野観音堂 & 第 23 番; 福王寺—6.76km—第 24 番; 浄禅寺—7.09km—第 25
番; 増珠寺—1.86km—藤野駅→相模湖駅→駐車場→自宅 (pm16:50 着)
合計 23.32km

今日は4日目に廻り残した“藤野”地域を巡る予定である。起点を藤野駅としたいので、バスで相模湖駅までのルートを考えてが、バス酔いの心配もあり車で相模湖まで行くことにした。

折角の車移動なので、マニアの間で“幻のダム”といわれている“沼本ダム”に寄り道することにした。

道志橋を過ぎ、消防署の所から右折し、細い道をぐるとひと廻りしてみたが、湖面を見下ろせる場所が見つからない。適当な駐車スペースもないようなので、一度バス通りに戻り、スーパーマーケットに駐車して、徒歩で探しなおすことにした。以外にも、隣のガソリンスタンドの脇から一直線の突き当たりが、沼本ダムの真上の場所だった。ここからインクラインのような階段が、ダムまで降りているのが見えるが、立入禁止でガッチリ金網が張られ鍵が掛かっていた。ところが、ダム関係者らしき車が1台止まっている所のカギが開いているのを発見。そこから金網の中に入ると、真下に沼本ダムが一望できた。(後に記録した沼本ダム紀行を参照) 真下のダムサイトから、作業着の二人がこちらを見上げているのが見えたので急いで引き下がる。

津久井湖に城山ダムが出来た為に、城山ダムが満水時には、落差は殆どなくなってしまうので“幻のダム”と呼ばれる所以のようだが、今日は津久井湖側の水が少なく、15メートル位の落差があるダムに見えた。ここからインクラインの階段に進入するのはヤバイので、なんとかダムを正面から見られないかと、水の少ない津久井湖に降りる脇道を探し、湖面まで降りてみることにした。そこには水の干上がった津久井湖の緑の湖面が広がっていた。このすぐ左手の山陰に沼本ダムがある筈だが、いくつかの小川の掘割が喰いこんでおり、危険なのでダムの見える所には近づけなかった。

(参考: Web にダム進入の写真があるが、撮影者が地名を間違えているようなので、沼本ではなく“沼沢ダム”で検索すること)



太平洋戦争中に沼本の急峻な峡谷に、こんなダムが造られているのに感動したが、相模湖の相模ダム(昭和22年完成)より前の、戦争中の昭和18年完成というから驚きである。ここには発電所はなく、取水場らしき設備が

その5-1

見える。ここから水道用及び発電用として、隧道が谷ヶ原浄水場まで引かれているらしいから、先人たちの努力に感動するばかりである。明治 22 年には、横浜水道の三井取水口としてこの下流 200m 付近にポンプ設備があり、隧道で横浜まで導かれたが、今は道志川の青山取水口に代わり、三井のこの取水口は廃止になっている。谷ヶ原下の津久井発電所の 1 号発電機は、今でも沼本ダムからの取水で発電をしているとのことである。(2 号機は、津久井湖が出来た段階で、城山ダムからの発電に切り替えられた。ちなみに能力は合計 25,000kw である)

相模湖に到着後、ダムサイドの駐車場に車を止めて、相模ダム(昭和 22 年完成)を初めて上から眺めてみた。

戦争末期に着手した日本で最初の重力式多目的ダムは、約 45m 位の落差のダムで、新緑の山々に静かに溶け込んでいる。発電所の放水口付近からは、すぐに溜まりになっているように見えるが、沼本ダムによる湖は、もう少し下流から始まるようだ。(千木良の吊り橋付近は、今でも相模川の本来の溪流を眺めることができる。)

発電所の向かい側で、釣りのようなことをしている人がいたが、あんな所にどうやって行ったのだろうか、不思議でしばらく眺めていたら、発電所の方にボートで戻ってきた。すると発電所からロープが投げられた。釣り人のような人も発電所の関係者ののだろうか? 時間がないのであとにしたが気になる光景だった。31,000kw の相模川最大の発電所に感謝感激。



相模湖駅も、高尾側から歩いて近づくと結構立派な駅であることが分かる。駅の右隣には有料駐車場も整備されているし、駐車場の屋上は、噴水などのある一寸した公園になっている。狭い地形を上手に生かして

いるなあと感心する。電車で藤野駅まで行き、本日最初の 22 番札所“藤野観音堂”を目指す。線路を越えて狭い沢井トンネルに向かう。小さいトンネルの割には天井が高いせいで、塗装がクリーム系のため、案外と明るいトンネルである。それにしても交互通行のようなトンネルなので、利用者はかなり不便だろうなあと・・・。

トンネルを抜けると、ずーと立派な道路である。トンネルの出口には、沢井地域のかわいいガイド看板が有ったが、それにしても相当の住宅があるようだ。そんな中に、何とか 100 選にも選ばれている重要文化財“石井家”という古民家があるらしく、お参りのついでに探してみようと思った。



(中里の石井家住宅は、宝永四年(1707)と記された県内最古の民家で、国指定重要文化財となっている。格式ある客間をもつ完全な「整形六ツ間取り」となっている。石井家は、かつて小田原北条氏の家臣で、当地に所領を有していた。江戸時代には名主をつとめ、田畑は沢井村内で最も多くもつ豪農であった)

第 22 番 藤野観音堂(元小淵)

観世音菩薩

三徳山清袋寺(せいたいじ)。元小淵、地藏菩薩を御本尊とした **臨済宗建長寺派**の寺にあった観音様。天文 3 年(1534)玉翁珠禪師の開山。昭和 29 年藤野町沢井、福王寺に合併。現在その地には古い御堂のみ残っている。現在は第 23 番札所福王寺境内に観音堂が建立されて、納経御朱印は福王寺で兼務。



22番“藤野観音堂”は、23番“福王寺”の中に祀られているようだが、福王寺の門扉が閉ざされており、外から二つの札所をお参りすることにした。

藤野観音堂の元の祠の場所を、前の家の方に尋ねてみたが「知らない」とのことで、今は福王寺（写真）の右手奥に祀られていると教えてくれた。

量り無き福聚蔵むる
観音堂尽きぬ宝は
富士の山程
はかりなきふくじゅおさむる
かんのんどうつきめたからは
ふじのやまほど

第23番 福王寺（日野） 十一面観世音菩薩

日野山福王寺（ふくおうじ）。臨済宗建長寺派。本尊は十一面観世音菩薩。文明3年（1471）、光明寺開山・夢窓国師5世の法孫了雲覚和尚の開山創立。元文2年本堂、庫裏焼失。天明3年本堂、庫裏再建。昭和29年藤野町清袋寺を合併。昭和40年本堂改修、41年には庫裏を新築した。尚、第22番札所、藤野観音堂はこの境内地に移転されている。

慾垢を沢井の水で
浄むれば大福王の
身とぞ生まれん
よくあかをさわいのみずで
きよむればだいふくおうの
みとぞ生まれん

こから石井家を探しながら移動する。雑貨屋で場所を教えてもらい、それらしき屋敷を見つけたが、通り過ぎてしまい、その先の大きな門構えの屋敷がそれかなと思ったが、これではいかにも新しすぎる。

少し戻って郵便局の前の古めかしい威厳のある構えの住宅が、目指す石井家のようにであった。現在も居住しているようで、勝手に立ち入るのは躊躇した。後で分かったことだが、予約しておけば内部を案内してもらえるようだった。最初に石井家と見間違えた豪華な邸宅は、沢井川を挟んだ沢井小学校の前あたりである。藤野町立沢井小学校と校舎にあったので、もう相模原市立だろうと思いながら近づいてみると、門の脇に“ありが



とう沢井小学校”の碑が建っていた。丁度、相模原市の管理人らしき人が来ていたので聞いてみると、平成18年3月31日で廃校になり、ここから2キロ位上流の佐野川小学校に統合したそうである。まだ築後10年経っていないようにみえるきれいな鉄筋コンクリートの校舎やグラウンドはそっくりそのままの状態で、今にも子どもたちが飛び出してきそうな雰囲気、いろんな想いが交錯して涙が出そうになる。さよなら沢井小学校！！



ここから統合されたという佐野川小学校を目指す。小学校がようやく見え出した所の三叉路を左に曲がると、上野原に向かう薄暗い山道をひたすら昇っていくことになる。途中、車が時々通るので案外立派な生活道路のようである。

一山を越えて、ようやく下りになる頃にT字路にぶつかり、これを右折して郵便局を兼ねたコンビニを見つけた。パンを購入、ようやく腹ごしらえを2時ごろにすることが出来た。

ここから上野原カントリークラブを目指す途中に24番“浄禅寺”はあった。目の前の谷の向こうにゴルフ場がちらちら見える高台にこのお寺はあった。ここでも読経し、今来た道を引き返す。今度は沢井方面に戻らずに国道20号線を目指す、上野原駅方面に下る訳である。20号線に出る少し前の山の中に株式会社エノモトというリードフレームや金型の立派な会社があった。外から眺めただけでも何か若々しく、いい会社だな的印象をもった。

こんな山中に立地した先見
に好感を持ちながらあとにした。



第24番 浄禅寺（上岩） 十一面観世音菩薩
岩村山浄禅寺（じょうぜんじ）。臨済宗建長寺派。本尊は十一面観世音菩薩。南北朝時代（1336～1392）に開創され、開山は、大江元静禅師。石橋尾神社と一体不二の関係にあり、本宮と別当寺の関係にあったと言われる。本堂には室町幕府、三代將軍足利義満の位牌や木造の十王像、奪衣婆像など貴重な重物がある。

行き暮れて入る佐野川の
浄禅寺岩を敷寝の
夢ぞ覚めける
ゆきくれているさのがわの
じょうぜんじいわをしきねの
ゆめぞさめける

次の25番札所“増珠寺”まで凡そ5キロと見当をつけているが、実際には20号線に出るまでに5キロ位あり、20号線に出てから更に2キロ位あったようである。25番札所“増珠寺”は20号線沿いの少し高い所にあった。お寺の狭い境内にはたくさんの地藏菩薩が祀られており、なにか雰囲気のあるお寺だった。



岩戸山いつも盛りの
増珠寺宝珠豊かに
暮らす関野に
いわとやまいつもさかりの
ぞうしゅうじほうしゅうたかに
くらすせきのに

第25番 増珠寺（関野） 聖観世音菩薩
龍淵山増珠寺（ぞうしゅうじ）。曹洞宗。本尊は延命地藏菩薩。永正年間（1504～1520）ここから北約2km 大日野原の古寺に功雲寺7世潮翁能音大和尚により開創され、黒沢山隠棲寺と称したが、後、天明5年、8世一堂快鞭大和尚の時、現在地に移転改築された。尚、この第25番札所は人造相模湖の湖底に沈み、海老名市勝瀬に移転した鳳勝寺から委譲されている。

お寺の真下には酒屋のような小さな古い店があり、ここでのどを潤し一息つく。一息つきながらお店の前の
廃屋を眺めていると、これはいいなあというものを見つけた。

雨戸の上と下が少しだけ開けるように格子になっているのだ。(写真の白っぽく見えるのが閉めた雨戸)

これなら、夜でも雨戸を閉めても涼しく寝られる工夫だなと思われた。昔の建具師の工夫に感心させられる。

この構造は、現代でも欲しい構造だと思って注意しながら歩いていると、このあたりの民家は、同じような構造の雨戸になっているところが多いことに気づいた。

それにしても、国道 20 号線に面したこの住宅は、車の往来の激しくなる時代と共に、そんな工夫の雨戸でも住むことは出来なくなってしまったのだろうか・・・。



今日のお参りは、このお寺で終了したので、ここからは一路藤野駅を目指す。

途中、歩道が途切れそうな所もあるが、相模川の向こうの藤野の景色や、山に描かれた手紙のモニュメントを楽しみながら案外すぐに駅にたどり着いた。

しばらく時間待ちになったが、快速電車で相模湖駅に降り立ったのは丁度午後4時。かなりきつい道のりだったが、それでも歩行距離は 23.32 キロ (27,127 歩) である。無事の巡礼に感謝しつつ、ダムサイドの車に戻り帰途についた。

(津久井観音霊場巡りーその5 終わり)